

総合的な探究の時間

1 総合的な探究の時間の改善・充実

(1) 生徒の学習状況の評価

総合的な探究の時間では、各学校において目標や内容を定め、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することが求められている。学校により、生徒に育てようとする資質・能力も異なることから、それらを踏まえ、評価の観点や評価規準を設定し、評価活動を適切に進めていく必要がある。

総合的な探究の時間における生徒の学習状況の評価を適切に実施するためには、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況に対する過程の評価の方法であること、の三点が重要である。

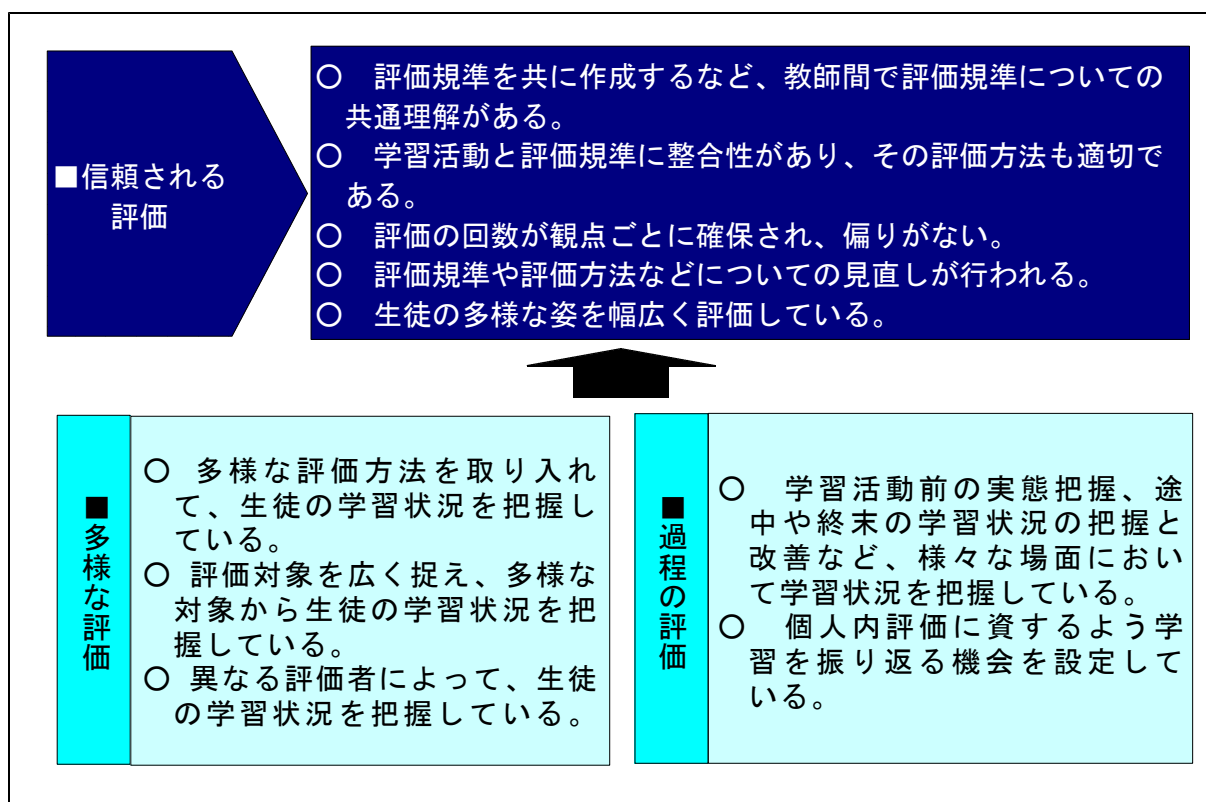


図1 生徒の学習状況を適切に評価するためのポイント（「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」文部科学省 令和5年3月）

なお、総合的な探究の時間では、個人として育まれる生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価することや、それを通して生徒自身も自分のよい点や進歩の状況に気付くようにすることも大切である。グループとしての学習成果に着目するのではなく、一人一人の学びや成長の様子を捉える必要があり、そうした個人内評価を行うためには、一人一人が学習を振り返る機会を適切に設けることが重要である。

多様な評価及び過程の評価の方法の例

パフォーマンス評価

- 一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動することを通して、その力がどのように発揮されるかを評価する方法。
- 課題解決の場面において、身に付けた力を総合的に活用する姿を見取る評価ともいえる。

【目的・効果】

- ・ 論述やレポートの作成、発表・実演、グループでの話し合いなどを通して、身に付けた力を実際に発揮している姿を総合的に見取る。

【留意点】

身に付けた力を発揮し課題解決に取り組む姿を評価項目として具体化し、生徒と共有しておく必要がある。

また、パフォーマンス評価の質を高めるために、ルーブリックを作成することも考えられる。その際は、適切な評価項目を設定することによって、教師が指導の改善を図ったり、生徒が学習の見通しをもったり、学習の改善に生かしたりすることができるように留意する。

第三者評価

- 保護者や地域の人々、専門家などの外部の協力者により評価する方法。

【目的・効果】

- ・ 学習の様子が多面的に映し出され、生徒や教師が気付かなかった点を補うことができる。
- ・ 生徒の取組が認められ、成就感や自己肯定感の獲得につながる。

【留意点】

評価者に対して、学習活動の趣旨やねらいなどを事前に伝え、十分な理解を得ておく必要がある。保護者や地域の人々等に対しては、どの機会にどのような方法で評価してもらうか、年間を見通した評価計画を立てておくことが大切である。

観察による評価

- 発表や話し合い・討論の様子、学習や活動の状況などを学習活動の過程を通じて観察に基づき評価する方法。
- 生徒の行動や発言、表情や動作、エピソードなどを評価資料とするには、観察記録（観察シートやチェックリスト等）を用い、情報を蓄積しておくことが大切である。

【目的・効果】

- ・ ワークシートや完成した作品では汲み取れない学習状況を見取る。
- ・ 過程での評価に適している。
- ・ 即座に指導に生かすことができる。

【留意点】

教師が生徒の活動の様子を見取る目を磨くとともに、評価を行う際の視点を明確にしたり、生徒の行動を総合的に理解し、その状況を観点に照らして分析したりするなどの工夫が求められる。

ポートフォリオによる評価

- 学習活動の過程や成果などの記録や作品を生徒が主体的・計画的に集積したポートフォリオを基にして評価する方法。
- 活動計画表や自己評価の記録、取材メモや感想、教師や友達、保護者や地域の人へのコメント、写真や報告書などを資料として集積する。

【目的・効果】

- ・ 継続的に資料をファイルやクラウドサーバーに蓄積することで、問題解決や探究の過程を詳しく把握することができる。
- ・ 振り返りの機会を設けることにより、生徒が思いや考えを整理したり、解決の見通しをもったりすることができる。
- ・ 保護者や進学先等への説明、第三者評価のための資料にも活用できる。

【留意点】

ただの集積物にならないよう、適宜資料の並べ替えや取捨選択をするなどの整理をさせ、自己の学習を見通し、振り返る機会を設けるようにする。

(2) 評価の工夫がみられる単元計画の具体例

探究課題を「地域理解と地域の課題解決」とした第1学年の実践について、指導と評価の計画の例を紹介する。本事例は、3つの小単元「探究の進め方」、「フィールドワーク」、「分野別探究」で構成している。小単元ごとの学習活動の場面において、資質・能力を発揮する生徒の姿を想定し、それぞれの学習状況に適した評価となるよう、指導と評価の計画を構想した。

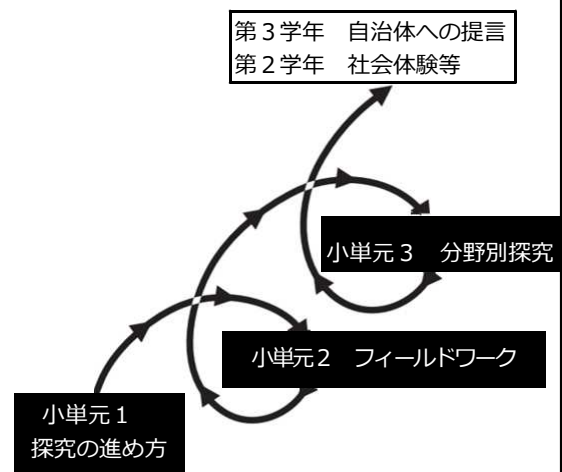
また、総合的な探究の時間における評価の工夫の具体として、多様な評価及び学習状況の過程の評価の例を示す。

事例 単元名：第1学年「地域学Ⅰ 地域を知り、地域の課題をつかみ、解決する」
(35時間扱い)

単元の概要

導入の小単元で探究の進め方を学習した後、地域の基幹産業である農業や林業、畜産業、酪農業と自然環境を関連付けながら地域の現状について把握する。その後、把握した現状から地域の課題を見出し、その解決方法について仮説を立て、検証する。

なお、本単元の学習内容を踏まえ、第2学年では、他の地域（類似課題を持つ道内自治体）の取組事例等の調査、地域創生を研究する大学生との意見交換、インターンシップを行い、社会体験等を通して地域についての学びを深める。第3学年では、3年間の探究学習の集大成として、地域創生についての提言書を作成し、町に提出する活動を行うこととしている。



単元の目標

フィールドワーク等の活動を通して、地域の歴史や産業など自分たちの地域について理解を深め、それらをもとに地域課題の明確化を図り、課題解決の方策を考察し、持続可能な地域づくりの実現に向けて、探究を通して得られた知見を生かして社会に参画し行動できるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①探究のプロセスや考えるための技法等、探究学習の進め方について理解している。 ②地域の歴史や産業等、自分たちの地域に関わる基礎的な知識について理解している。 ③客観性の高いデータや根拠となる事実を、目的に応じて適切に収集している。	①地域に関わる情報をもとに、他者とのコミュニケーションや論理的・創造的思考により、課題を発見することができる。 ②地域住民からの聞き取り等により収集した地域に関わる情報について、グループで協働しながら整理・分析を行うことができる。 ③探究の目的と解決の方法に矛盾がないかを意識しながら、解決のための具体的な内容をまとめている。	①地域の自然や地域を支える産業等に関心を持ちながら取り組む課題を設定しようとしている。 ②グループ活動を通して、他者と協働しながら、主体的に課題を解決しようとしている。 ③持続可能な地域づくりの実現に向けて、探究を通して得られた知見を生かして社会に参画しようとしている。

指導と評価の計画

小単元名(時数)	学習活動	知	思	態	評価方法
小単元1 「探究の進め方」 (5h)	○ 学習目標の提示 (1h) ・探究課題とスクール・ポリシーとの関係についての説明を聞く。			③	ワークシート
	○ 探究学習の進め方の理解 (4h) ・身近なものを題材として、問い(リサーチ・クエスト)を立てる。 ・立てた問いの仮説と、仮説を立証するために必要な情報(根拠)を考える。 ・各種統計データ、データの分析方法についての説明を聞く。 ・様々な思考ツールなど、考えるための技法についての説明を聞く。	①			ワークシート
	・ポスターの作成方法についての説明を聞き、有効なプレゼンテーションの方法についてのロールプレイを行う。	①		①	ワークシート 自己評価シート 評価事例① (P5)
小単元2 「フィールドワーク」 (16h)	○ [テーマ1] 地域の自然環境 (4h) ○ [テーマ2] 地域の農業 (4h) ○ [テーマ3] 地域の畜産と酪農 (4h) ○ [テーマ4] 地域の林業 (4h) ・4つのテーマは、次の①～④の流れで学習する。 ① 地域人材を講師とした講義 ②③現地見学・実習 ④ レポート作成	【実践校からのアドバイス】 教師が用いるルーブリックを、単元の冒頭に生徒に提示しています。また、評価場面ごとに、改めて身に付けさせたい資質・能力を説明し、生徒が見通しを持てるよう工夫しています。			
	※ 4つのテーマは、地域の基幹産業等として位置付けられている内容である。	【実践校からのアドバイス】 成果物の出来映えのみで評価すると、グループ内の生徒一人一人の取組を評価することが難しいので、学習状況の過程を評価できるように、ワークシートや振り返りシートで評価の工夫をしています。			
小単元3 「分野別探究」 (14h)	※ 「自然」、「農業」、「畜産」、「酪農」、「林業」の中からグループの主題を設定し、活動を開始する。	【実践校からのアドバイス】 課題設定の前に、フィールドワークを位置付けることで、「どうしてこのようになっていくのか」、「こうあるべきではないか」などの問題に気付き、課題へと高めていくことが期待できます。			
	○ 課題の設定 (4h) ・フィールドワークを踏まえて課題を出し合う。 ・様々な課題の中から、理想と大きく隔たりがあるものや、強い深刻性があると感じたもの、または、興味・関心が高いものなど、自分たちが取り組みたい課題を決める。 ・仮説を設定し、仮説の検証に必要な資料のリストを作成する。	①			ポートフォリオ
	○ 情報の収集 (3h) ・文献から先事例を収集する。 ・インターネットや文献から統計情報を収集する。 ・電話やオンラインでインタビューを実施する。	③			ポートフォリオ
	○ 整理・分析 (2h) ・収集した情報の分析、仮説の検証を行いながら、課題解決の方策として整理する。		②		ポートフォリオ 観察 評価事例② (P6)
	○ まとめ・表現 (4h) ・ポスターセッション方式で行う「第1学年探究成果発表会」で使用するポスターを作成する。		③		ポスター
○ 探究活動の振り返り (1h) ・地域社会にどう参画していくべきか等について自論を形成し、他者と議論する。			① ③	自己評価シート ワークシート	

道立図書館サービスの活用 (P10)

ア 評価事例①～生徒自身が評価する取組～

本事例は、生徒自身が評価する取組である。小単元1において、授業者から生徒に対して、探究課題とスクール・ポリシーの関係を説明するとともに、スクール・ポリシーをもとに整理した生徒に身に付けてほしい資質・能力の具体的な評価基準を「ルーブリック」(図2)により示すことで、生徒が「何を評価されるのか」を認識することができるようにしている。

これを踏まえ、小単元ごとに、生徒は、「自己評価シート」(図3)を用いて自己評価を行う。本シートは、生徒が各項目の自己評価を入力すると自動的にレーダーチャートに反映される仕組みとなっている。レーダーチャートに示された自己評価の結果を生徒自身が確認することで、どの資質・能力がどの程度身に付いているのかを視覚的に捉え、次の学習に生かすことができる。

また、継続的に「自己評価シート」(図3)をファイルやクラウドサーバーに蓄積することで、授業者は生徒の変容を把握し、個人内評価を行うことができる。

A 高校が育成を目指す3つの力		A 高校が育成を目指す10の資質・能力		「A」字の評価観点		C		B		A		
主体的に学ぶ力	基礎学力	情報収集能力	Bが達成できていない	Bが達成できていない	自らの探究課題について、ICT機器や書籍を活用したり、体験活動時の講師の講話を聞くなどして情報を集めることができる。	自らの探究課題について、ICT機器などを利用して集めた情報をもとに問いを設定し、インタビューなどの社会調査を通してさらに情報を集めることができる。	Bが達成できていない	事実と意見を区別した上で、根拠を持って自らの意見を持つことができる。	事実と意見を区別し、グローバルな視点から自らの意見を持つことができる。	Bが達成できていない	探究に興味を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	自らが地域課題解決の担い手であるという自覚を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。
	考える力	論理的思考力	Bが達成できていない	Bが達成できていない	探究に興味を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	自らが地域課題解決の担い手であるという自覚を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	Bが達成できていない	探究に興味を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	自らが地域課題解決の担い手であるという自覚を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	Bが達成できていない	探究に興味を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	自らが地域課題解決の担い手であるという自覚を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。
	継続する力	学びに向かう力	Bが達成できていない	Bが達成できていない	探究に興味を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	自らが地域課題解決の担い手であるという自覚を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	Bが達成できていない	探究に興味を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	自らが地域課題解決の担い手であるという自覚を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	Bが達成できていない	探究に興味を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。	自らが地域課題解決の担い手であるという自覚を持って、進んで探究活動に取り組むことができる。
他者と共に生きる力	協働する力・寛容性	自他理解力協働性	Bが達成できていない	Bが達成できていない	体験活動や探究活動において、他者と協力して調査や作業を行うことができる。	体験活動や探究活動において、他者と協力して調査や作業を行うことができる。	Bが達成できていない	他者の意見を耳を傾け、自分の意見や考えも伝えることができる。	互いの意見を伝え合うだけでなく、それぞれの思いに寄り添っているところを発見し、議論を進めることができる。	Bが達成できていない	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。
	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力(活動時)	Bが達成できていない	Bが達成できていない	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	Bが達成できていない	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	Bが達成できていない	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。
		表現力(発表時)	Bが達成できていない	Bが達成できていない	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	Bが達成できていない	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	Bが達成できていない	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。	探究の結果を、その内容に対して的確な資料(ポスター、pptx、Googleスライド、レポート等)を用いて発表することができる。
未来を切り拓く力	社会性・郷土愛	公共性	Bが達成できていない	Bが達成できていない	地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の魅力や特長について知るることができる。	地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の魅力や特長について知るることができる。	Bが達成できていない	事前学習や体験活動を通して、それぞれの分野の課題を発見することができる。	事前学習や体験活動を通して、それぞれの分野の課題を発見し、その課題解決のための仮説を立てることができる。	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。
	課題解決能力	課題発見能力	Bが達成できていない	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。
		課題解決能力	Bが達成できていない	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。
挑戦する力	挑戦する力	Bが達成できていない	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。	Bが達成できていない	探究活動において、与えられた課題の解決策を自ら進んで解決しようとする。	探究活動において、与えられた課題を自ら進んで解決する。	

図2 小単元1で示される「ルーブリック」

評価シート		氏名		日時		
単元	自然	●●●●		月	日	
回数	2					
活動内容	探究					
ルーブリック評価						
3観点	分類	評価の観点	本時	実質・能力	評価	達成度
知識・技能	基礎学力	情報収集能力	○	情報収集能力	B(2)	Bが達成できなかった
		論理的思考力	○	論理的思考力	B(2)	Bが達成できなかった
	考える力	○	課題発見能力	○	課題発見能力	B(2)
思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力	○	コミュニケーション能力	B(2)	Bが達成できなかった
		表現力	○	表現力	B(2)	Bが達成できなかった
	継続する力	○	学びに向かう力	○	学びに向かう力	C(1)
主体的に学びに取り組む態度	協働する力・寛容性	自他理解力協働性	○	自他理解力協働性	C(1)	Bが達成できなかった
		公共性	○	公共性	B(2)	Bが達成できなかった

資質・能力

レーダーチャートに示された自己評価の結果

図3 各小単元で使用する「自己評価シート」

イ 評価事例②～観察による評価～

本事例は、小単元3「分野別探究」の「整理・分析」の学習過程において、観察による評価を行うものである。評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度②」、評価規準は、「グループ活動を通して、他者と協働しながら、主体的に課題を解決しようとしている。」である。

次の「チェックリスト」(図4)を用いて、チームティーチングで生徒がグループ活動をしている様子を見取る。

【生徒Aが所属するグループが設定した課題】 どうすれば離農を食い止めることができるか	
チェックリストの例	
大項目	評価内容 (生徒の姿)
他者と協働しようとしている	<input checked="" type="checkbox"/> 自分の意見を述べている <input checked="" type="checkbox"/> 他者の意見を聞いている <input type="checkbox"/> 様々な意見をまとめようとしている
主体的に課題解決しようとしている	<input type="checkbox"/> 自ら整理・分析の方法を提案している <input checked="" type="checkbox"/> 自分の役割をグループの中で果たそうとしている
<input checked="" type="checkbox"/> 持続可能な地域づくりの実現を目指した発言や行動が見られる	

図4 チェックリスト

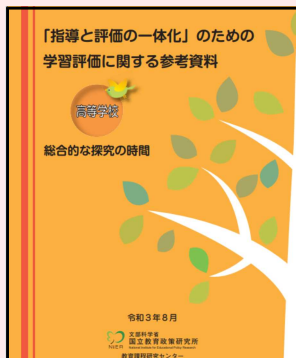
課題解決の方策を考察する話し合い活動の場面において、生徒から、「この先行事例を使うことで、一時的に離農を食い止めるのではなく、継続的な効果が期待できると言えるよね。」という発言があった。そこで、授業者は、単元の目標である「持続可能な地域づくり」を意識した発言であると判断し、チェックを入れた。

このように、チェックリストを用いて評価することにより、評価を行う際の視点を明確にして、生徒の行動や発言、表情や動作などの生徒の姿を評価することができる。

【実践校からのアドバイス】
生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し生徒に伝えることが、生徒の学習意欲を高めることにつながります。

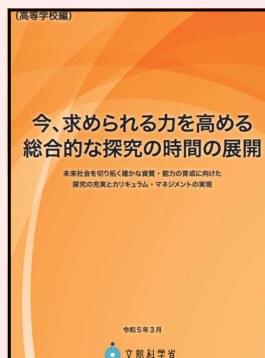
【参考文献の紹介】

『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (総合的な探究の時間)』



学習評価の基本的な考え方や、各教科等における評価規準の作成及び評価の実施等について解説しているほか、各教科等別に単元や題材に基づく学習評価について事例が紹介されている。

『今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開』



学習指導要領の改訂を踏まえ、総合的な探究の時間に係る全体計画等の基本的な考え方や具体例、学習指導及び総合的な探究の時間を推進するための体制づくりなどについて、分かりやすく解説するとともに、優れた実践事例が紹介されている。

2 「探究チャレンジ・北海道」の取組

(1) 「探究チャレンジ・北海道」の実施

道教委では、令和4年度から「S-TEAM教育推進事業」を実施しており、令和5年3月11日（土）、北海道大学学術交流会館において、全道の高等学校及び特別支援学校高等部の生徒が



取り組んだ探究活動の成果を発表する「探究チャレンジ・北海道」を開催した。各管内で行われた「探究」チャレンジプロジェクトや、実社会の課題解決につなげる「社会との共創」推進プロジェクト等の代表として選ばれた25校84名の生徒が発表や交流を行った。

【参加校と発表題一覧】

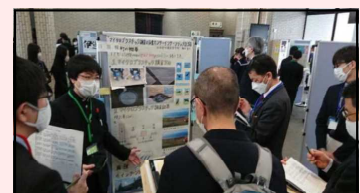
参加対象	探究課題	参加校	発表題(問い)
「社会との共創」推進プロジェクト	地域課題解決型	浦河	地域課題を考えるツール開発
		伊達開来	伊達レンジャー～みんなで助け合うまちづくり～
	アントレプレナー教育型	釧路江南	学校の机の問題を解決するために
		名寄	ニトリ「新サービス」の提案について
科学技術活用型	函館工業(定)	道南地区における人口減や高齢化によるドローンサービスの可能性について	
	釧路湖陵	カゼインプラスチックの研究	
		旭川高等支援	雪冷蔵・雪冷房にチャレンジ!!
「探究」チャレンジプロジェクト	※各学校で設定された探究課題	岩見沢農業	豪雪地帯「岩見沢市」におけるバイオマスエネルギーを活用した冬野菜類栽培試験
		札幌東	「目に見えない障がい」に対する偏見・差別をなくすには
		札幌啓成	レイケ管～超音響現象とは～
		札幌工業	琴似発寒川(農試公園周辺)の治水と生態系確保の両立への取り組みについて
		倶知安農業	The flower of your life～新たな挑戦から広げる花の可能性～
		静内農業	お馬さんは心と体のセラピスト～馬との共生社会を活かした動物介在活動～
		平取	障がいがある方と共に生きていくために私たちができること
		函館西	「食を通じて地域と世界を繋げる」～ウクライナの伝統料理と地元の名産品を通じて考える私たちにできること～
		旭川南	売れた小説の内容と社会情勢の関係について
		旭川農業	上川アップデート・プロジェクト～木製品開発で新たな魅力を!!～
		羽幌	マイクロプラスチック調査と海鳥センターインターンシップ記録
		網走桂陽	向陽ヶ丘にコンビニが欲しい
		常呂	Tokoro Project(TP)での探究チャレンジ
		帯広緑陽	餓死について十勝だからできること
標茶	標茶町でパフェを食べてみませんか		
一般参加		壮瞥	不用なものを有効に～果樹の廃木で地域貢献～
		市立札幌旭丘	札幌の気温変化とゴキブリ
主催者参加要請		札幌国際情報	中央アフリカ共和国の課題と解決策

☆当日の様子から☆

参加校は、探究活動の成果を1枚のポスターにまとめ、他の参加者や審査員に向けてその内容を伝える「ポスターセッション」を行った。成果発表では、それぞれの学校が、グラフ・図表や写真を多く用いて視覚的に訴えるポスターを制作したり、聞き手とのコミュニケーションや実演を交える説明を行ったりするなどの工夫が見られた。


ポスターセッションの利点として、

- 発表内容に関心をもっている聞き手に向けて発表をするため、聞き手にとって理解しやすい。
- 聞き手との質疑応答や意見交換を通して、発表者が、自分の考えを深めたり、新たな視点を得たりすることができる。などが期待できるため、ポスターセッションは、各学校で行われる総合的な探究の時間における「まとめ・表現」の一つの方法として有効である。



【生徒の声】

審査員の方々など、発表を見に来てくださった方がとても優しく、質疑応答を楽しむことができました。
様々な意見をいただき、自分たちの研究をブラッシュアップするきっかけになりました！



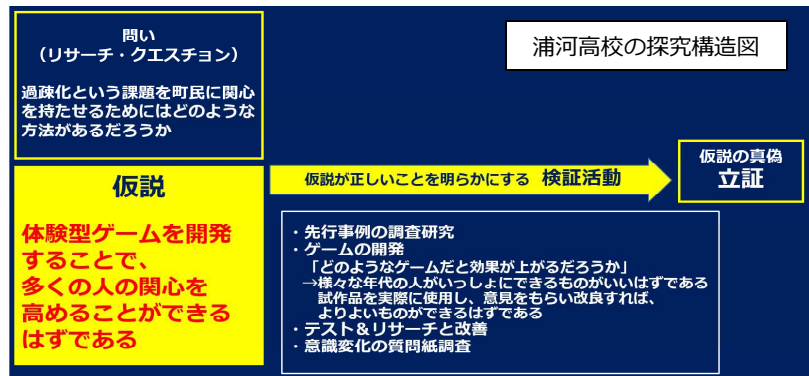
普段なかなか考えないような探究テーマがいくつもあり、とても興味が湧く発表が多かったです。
自分もそれらの問題に関してどのような考えをもち、どう解決していくか、さらに考えていきたいです！

【先生の声】

普段見たり聞いたりする機会の少ない、全道の高校の「総合的な探究の時間」の取組を肌で感じることができ、生徒も自分も勉強になるものでした。
この経験を持ち帰って、「総合的な探究の時間」の充実を図りたいです。

(2) 発表事例（浦河高校）

「社会との共創」推進プロジェクトの地域課題解決型に取り組んだ浦河高校は、右の「探究構造図」に示した活動を行った。



ア 事前調査

RESAS等のシステムを用いて、浦河町の人口推移を調べたところ、自分たちが予測した浦河町の将来人口と実際のデータに「隔たり」があることに気付いた。

さらに、産業別人口推移、観光客数や収支状況等を調べた結果、町にとって人口減少の問題は深刻であると認識し、「浦河町の人口問題の解決」を主題とすることとした。

Point

人、社会、自然に直接関わる体験学習や、複数の資料を分析するなど、課題を設定するための事前学習（調査）が重要である。
生徒が事前学習（調査）から、現実の状況と理想の姿との「ずれ」や「隔たり」を見出し、その問題の深刻性を捉えることによって、違和感（気になること）や解決の必要感（何とかしたいという思い）を抱き、適切な課題が設定できる。

イ 課題設定

主題についてグループでアイデアを出し合いながら、自由な意見交換を通して柔軟に発想を広げ、「過疎化という課題を町民に関心を持たせるためにはどのような方法があるだろうか」という問い（リサーチクエスチョン）を立てた。問いに対する仮説を「体験型ゲームを開発することで、多くの人の関心を高めることができるはずである。」とし、仮説の真偽を立証するために検証活動を行うこととした。

ウ 情報収集

先行事例の調査研究として、兵庫県尼崎市で開発された類似プログラムを調査した。

体験型ゲームは、地域や年代・性別などを問わず議論が充実する仕組みとするため、スゴロクとした。スゴロクの内容を考えるため、住民アンケートを実施した。

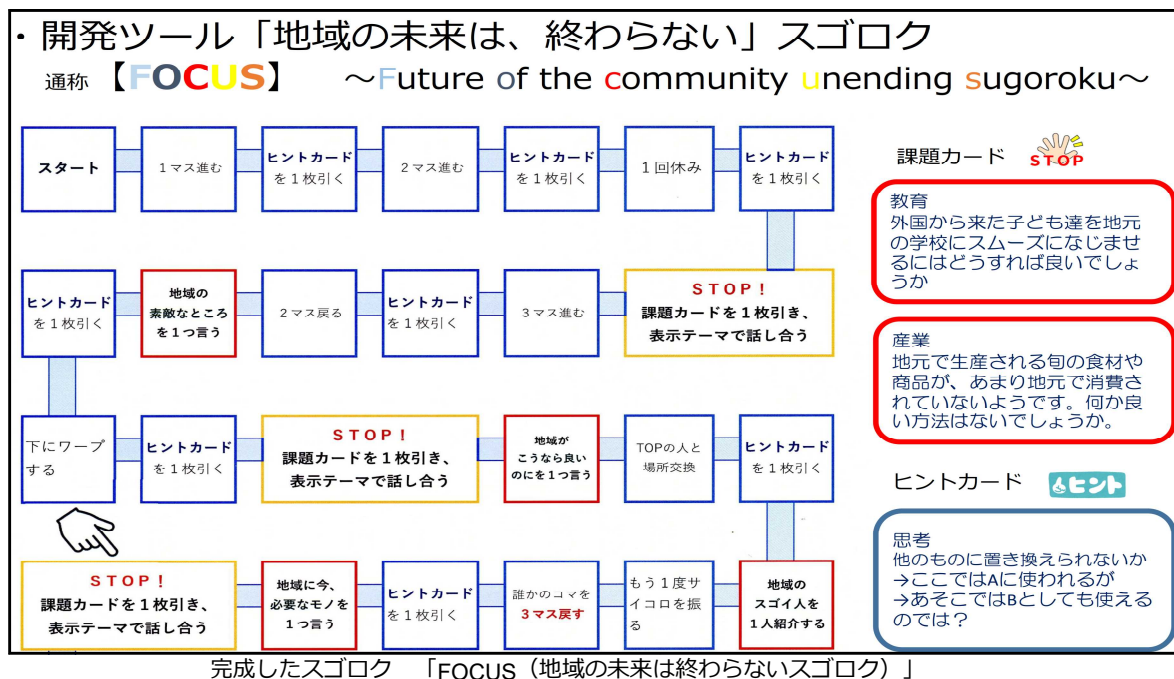
Point

本事例では、Google formsを使用し、効率よくアンケートを実施することができた。
アンケートのQRコードを作成して情報収集する方法も考えられる。

エ 整理・分析

住民アンケートの結果を、職業別に重視されている地域課題が把握できるよう、グラフ化して整理した。

また、実際に小学校において試作品を使用してテストを行い、その結果から試作品の改良を図った。



(3) 「探究チャレンジ・北海道」の成果

ア 発表する機会の充実

道教委では、「探究」チャレンジプロジェクトにおいて、全ての道立高校で実施した探究活動について発表する機会を各地域及び全道規模で確保するなどして、生徒の探究的な学びを推進している。各学校においては、本プロジェクトを活用して、生徒が発表する機会の充実を図り、探究活動をより一層充実させることが期待される。

イ 探究活動の充実に資する動画資料の提供

「探究チャレンジ・北海道」などにおいて生徒が発表の様子を収録した動画が蓄積されており、各学校で視聴することができる。各学校においては、この動画資料を探究活動の単元の導入時に生徒に視聴させるなど、生徒の探究活動の充実に資するよう活用することが期待される。

また、道教委では、優秀発表校において、「教師は生徒に対してどのような支援を行ったのか」を分析した研修資料を作成した。各学校においては、探究活動の指導方法を理解するための校内研修等で有効に活用することが期待される。



Q 課題の設定の指導で、留意したことは何ですか。

A 生徒の考えを大切にする。



研修資料 https://www.youtube.com/playlist?list=PLa6Z4VXKYbFpISHFmYQrz6Gb_jPEgUJ23m

Topic

総合的な探究の時間における北海道立図書館の活用

右図に示したとおり、探究活動における課題設定や情報収集の場面で、文献が必要となることが考えられる。学校や地域の図書館に専門的な文献が見つからない場合には、北海道立図書館が行っているサービスの一つである、「学校図書館協力貸出し」の利用が有効である。

本サービスのポイントは、次のとおりである。

無料で

直接
お手元へ

学校において、本サービスの利用を希望する場合には、下記の流れに沿って手続き等をお願いする。

【利用イメージ】

Step 1

「生徒が必要な文献をさがす」
北海道立図書館ウェブページの「蔵書検索」から、必要とする文献を探します。
<https://www.library.pref.hokkaido.jp/wo/opc/srh/>

Step 2

「学校が申し込む」
学校単位で借りたい文献を取りまとめ、北海道立図書館へ申込みを行います。

Step 3

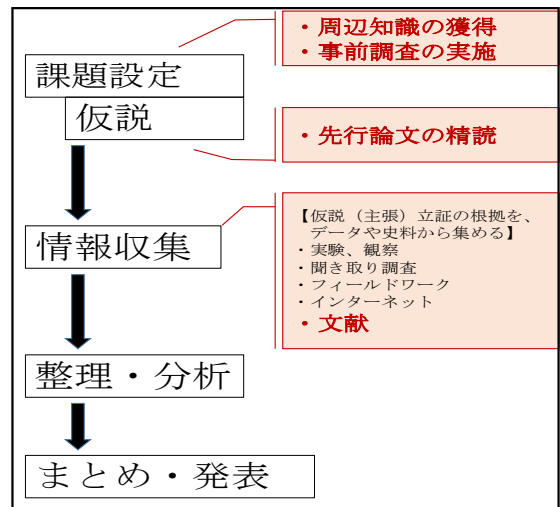
「学校に届く」
申込みを受けた北海道立図書館から、学校に直接送付されます。

Step 4

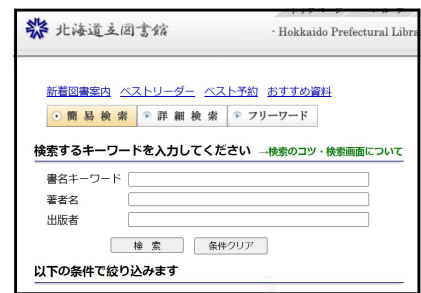
「生徒が文献を利用する」
生徒が文献を使って、探究活動を進めます。

Step 5

「北海道立図書館に返却する」
宅配便、又は、ゆうパック等で学校から北海道立図書館へ送付します。
道立学校については、返却時の送料は無料です。



探究活動における文献活用場面の例



北海道立図書館「蔵書検索」



北海道立図書館は、100万冊以上の蔵書を有する、北海道最大級の図書館であり、一般資料のほか比較的高度な調査研究に必要な資料等が幅広く整っている。
課題設定前の事前調査や、情報収集の場面において必要となる文献に出会える可能性が高く、加えて、道立学校については費用がかからない（道立学校以外は返却時の送料がかかります。）ことや学校に直送されることなど、利用しやすいものとなっている。

- 申込み・問合せ先
北海道立図書館企画支援課
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906
E-mail for-gakko@library.pref.hokkaido.jp